

## 浅川ダムに見る説明責任と信頼関係の重要性

平松晋也

当初県側より、公共事業評価監視委員会に対して、浅川ダム事業再開の旨の報告があった。その際、従来の浅川ダム事業は中止しており、今回の事業はあくまでも新規事業(穴あきダムとしてリニューアル)であり、「原案に関する説明会」、「住民からの意見聴取のための公聴会」、「学識経験者からの意見聴取：再評価実施済みとみなし得る」などの所定の手続きを済ませた上の結果であり、制度的に不都合はない旨の説明があった。この時点では、「リニューアルといえども、事業目的や建設予定地が同一の事業の審議を評価監視委員会で実施しないとする事に対し（従来の案に対しては同委員会で審議してきたにもかかわらず）、少なからず無理がある」と感じつつも、制度的に何ら問題が生じないのであれば納得せざるを得ないものと、考えるに至った次第である。これは、あくまでも性善説に立った上での小生の結論であった。しかしながら、その後の県側からの説明により、「従来の浅川ダム計画は、中止ではなく休止であり、国に対しては毎年ゼロ要求を続けていた。」事実が明らかになった。ということは、当初のリニューアル案は方便に過ぎず、小生の性善説は脆くも無残に打ち砕かれたことになる。いったん芽生えた猜疑心は、なかなか払拭し得ないものである。一度猜疑心が芽生え、信頼関係が崩壊してしまうと、その後どれほど信憑性のある調査結果や審議結果を提示されたとしても、それをそのまま鵜呑みにすることは至難であるというのが人の常である。

浅川ダム問題は、長野県ひいては我が国の河川行政・事業のあり方や行方を模索する上で、極めて重大な問題であるものの、ここに、「必要不可欠と判断される事業を展開していく上で、国や県といった事業主体（行政）と市町村、地域(住民)ひいては各種必要となる委員会 etc との有機的連携(何事も包み隠さない的確な説明 説明責任)や信頼関係の重大さ」を県は真摯に受け止めるべきことを強く指摘したい。公共事業は、あくまでも国民(県民)の税金で賄われるものであり、決して慈善事業ではない。このため、説明責任の不履行や信頼関係のちょっとした綻びから、事業そのものの必要性が大きく揺らいでしまうだけでなく、逆に不信感を抱かせてしまう事態も想定されよう。

浅川ダム問題に限らず、あらゆる事業展開に関しても、真摯な姿勢を県に強く要望する次第である。

一方、技術的事項に目を向けると、浅川ダム計画地点周辺には、地すべり地形が随所に認められる。当該地点での土砂の取り扱いについての詳細な説明を受けていないため、断定的な事実にも言及することはできないものの、ダム完成後の土砂生産の可能性さらには活性化を考えると、当初計画どおりの治水効果が当該ダムに期待できるかについては、少なからず疑問が生じるところである。通常、ダム建設直後より数年間はその周辺域からの土砂生産は活発になり、ましてや地すべり地帯となるとなおさら注意が必要となる。当然のことながら、浅川ダムは、あくまでも治水ダムであり、決して砂防えん堤ではない。また、幸いにして所定の治水効果が確保されたとしても、

穴あきダムであるが故に，土砂排出時の濁水や多量の土砂供給に伴う下流域への影響を十分に配慮しておく必要がある。また，土砂が生産されると必ず斜面上に存在する立木は流木となり，下流部に被害を及ぼすことになる。このような土砂や流木の発生に伴う被害を想定した上で，十分な対策を講じる必要がある。「十分な調査を行った上での結果であり，不足分については十分な対策を講じる」と説明するのはたやすいことである。しかしながら，先に指摘したように，相互の合意形成が得られ円滑な事業展開を推進していこうとするならば，その成功の鍵を握るのは形骸化されたリップサービスではなく，真摯な態度の上に成り立つ「説明責任と信頼関係」である旨を十分認識していただきたい。

結論的には，今回の浅川ダム問題に関しての長野県サイドの姿勢や方法論(手続き論)については，時間経過とともに不条理な点が少なからず散見されるようになった。この問題は，単なる浅川ダムのみにとどまらず，今後の公共事業のあり方や方法論を模索していく上で，良きにつけ悪しきにつけ大きな教訓となったであろう。今回の浅川ダム問題のような事例を二度と生み出してはならない。そうならないためにも，浅川ダム問題を真摯に総括し，問題点と是正策についての洗い出しを長野県に期待したいところである。

県民に反対されるような事業を長野県としても喜んで遂行したくはないはずである。せつかなけなしの税金を投じて遂行する必要のある事業であるならば，事業の必要性や効果(世情を勘案すると，単一目的は好ましいものではなく，多目的であるのが望ましい)に関する説明責任を十二分に履行するとともに，相互の信頼関係を回復&再構築し，行政のみが自己満足に陥ることなく施工業者や地域住民をはじめとし，ひいては県民全体が十分に納得した上で「笑顔」になるような事業展開を心がけられたい。また，長野から「自慢の事例」として全国に発信していただきたいものである。

今後，二度と浅川ダムのような轍は踏まないよう，強く要望するものである。